

平成21年3月31日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：平成17年度～平成20年度

課題番号：17320027

研究課題名（和文）貴重音響資料デジタル化の試み

研究課題名（英文）An attempt to degitize valuable sound materials

研究代表者 土田英三郎

研究成果の概要：東京芸術大学が明治期以来の長い歴史の中で、学内各部署に分散蓄積してきた貴重な資料群の所在を確認し、目録を作成のうえ、近年とみに劣化が激しく、このままでは、死蔵されたまま歴史の片隅に埋もれてしまいかねないアナログ録音のオープンテープをデジタル化し、音のデータベース構築する基礎を形成できたこと、そして一部ではあるが、公開の機会を得ることができたことは、本研究の大きな成果である。今後は、本研究で採り上げられなかったアナログ資料をデジタル化し、積極的に公開する方法を探り、公共の財産として活用する方向を目指したい。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成17年度	3,000,000	0	3,000,000
平成18年度	4,500,000	0	4,500,000
平成19年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
平成20年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
総計	15,200,000	2,310,000	17,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：芸術諸学、美学、情報図書館学、システム工学

## 1. 研究開始当初の背景

我が国における明治以降の洋楽と邦楽にまたがる芸術音楽の発展を体現し、第一級の歴史的・共時的資料である東京芸術大学所蔵の音楽資料に関する情報および資料そのものを積極的に公開し、公共の財産として活用できるようにすることは、本学の使命であり、我が国の教育研究機関の義務でもある。その体制作りが急務である。

## 2. 研究の目的

明治以来の長い歴史の中で、学内の各部署に

分散保管されてきたこれらの資料について、所蔵確認、目録作成のうえ、近年とみに劣化が激しく、このままでは、かけがえのない貴重な資料が死蔵されたまま歴史の片隅に埋もれてしまいかねないアナログ録音のオープンテープの一部を最優先にデジタル化し、将来の活用に備える。

## 3. 研究の方法

- (1) 文字データベース構築
- (2) 音響資料のデジタル化の研究と実行
- (3) デジタル資料の処理

- (4) 音響資料データベース構築
- (5) 検索性データベース設計

#### 4. 研究成果

文字データベース構築、音響資料のデジタル化の研究と実行（メサイア、オペラ・オーケストラ・吹奏楽定期演奏会計 883 本）、デジタル資料の保存（ソフトケースに保管し、破損を回避。ハードディスクにファイルをコピー保存）、音響資料データベース構築を行った。データ数は、演奏会データ 827 件、人名データ 26,500 件、曲名データ 50,767 件。検索性データベースの設計中。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔その他〕

平成 19 年 9 月、台湾国立花蓮教育大学芸術学院による本学訪問の折り、関根和江が意見交換の場に加わり、音楽研究センターで進行中のデータベースについて紹介する機会を得た。引き続き行われた学内視察では、音楽研究センターにおいて、デジタル・サウンド・アーカイヴの現状を体験していただくことができた。

また、同年 10 月、東京芸術大学附属図書館（館長：土田英三郎）において開催された「藝大をいどった人々」（東京芸術大学創立 120 周年記念企画、附属図書館所蔵貴重資料展）の折り、数百点のデジタル音源中のごく一部を公開した。東京芸術大学の歴史を「音」でいどった人々の演奏が、展覧会に華を添えた。

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

土田英三郎

##### (2) 研究分担者

植田克己、檜山哲彦、畑瞬一郎、亀川徹、関根和江、岩崎真